
快晴時々雨

黒崎しのぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

快晴時々雨

【Nコード】

N1030Z

【作者名】

黒崎しのぶ

【あらすじ】

金管バンド部の部長と副部長は、
実は、あの有名な指名手配犯！？
コミカルな手口で鮮やかなまでに犯罪を犯したり
悪人を裁いたり……

某田舎のとある小学校――

北側の校舎の三階の端、グロッケンやトライアングルなどの音楽楽器が大量に置いてある

音楽室から、滑らかなバラードが鳴り響いていた。

この音楽を奏でているのは、40名ほどのこの学校の小学生たち。トランペット、トロンボーン、サックス（ソプラノ、アルトのみだ）、アルトホルン、ホルン、フルート、パーカッションの楽器があり、其々5〜8くらいの人数だ。

その中でも、一際目立つ楽器を、この小学校で一人しか弾けない楽器を演奏している少女がいた。

ソプラノサックスを演奏している、加宮希は、この金管バンドの部長をやっている。かみやのぞみ

頭脳明快、容姿端麗な、小6の彼女は、圧倒的な推薦で、部長になった。

頭が切れるだけでなく、一緒にいて楽しいと評判の希は、かなりの人気者だ。

部長がいるということは、副と名のつく部長、つまりは副部長もいることになる。

サククスという木管楽器がありながら、吹奏楽部ではなく、金管バンド部と名乗り続けるのは、この倶楽部のプライドだ！と、副部長で、トロンボーンのパートリーダーで、日本語能力の少し足りないナルシストなきつとこの物語の主人公の玖渚由貴くなぎさゆきは言っている。

希と由貴は、小2のとき偶々席が隣になったのがきっかけになり、彼女らの付き合いが始まった。性格が似ていることや、お互いに足りないことを補ってくれる存在が、後押しし切っても切れない仲間になった。

由貴はそこまで頭はよくないものの、それを補うはるか高い身体能力がある。

サッパリ且アツサリとし、周りの目は気にしない性格の癖に、潔癖症で、ナルシストという

よくわからない性格なところが面白いと、希は思う。そしてより一層、愛しく思う。

希は、足りないものがない、というか欠点がないという完璧さがありながら

それでいて誰にも優しく、自慢しないところが、由貴は羨ましく思う。

そして、ずっと傍にいたいと感じれる。

始めてあったその日から、その思いは、お互い変わらない。信じれる存在、守りたい存在、傍にいてほしい存在……すべてに当てはまりまくるほど、大好きだ。

羞恥という感情を全く持っていない由貴は、しょっちゅう希に「好きだ！」とか「新婚旅行どこ行く？」

などの言葉を口に行っているのだった。

最後に長く、静かな和音が流れる。
指揮の女性、嘉村歩美^{かむらあゆみ}が、手を絞り、音を切る合図を出す。

その瞬間、教室は静寂に包まれる。

思わず息を飲むような、神聖な、穏やかな、バラードにふさわしい
終わりだった。

全く、今日は最悪だ。

ターゲット
獲物逃しちまうし、銃弾が頭掠ったし、サツに見つかっちまうし……

頭に包帯を巻いた女性が一人、田んぼの脇の道を歩いていた。

鋭く吊り上がった眼は、金色に輝き眩いほど光っている。

引きしまった細身の体、腰まで伸びた赤みのかかった黒い髪。

ここまで完璧な美人なだけに目つきの悪さは異様に目立ってしまう。
頭に巻かれた包帯を気にしながら、ポツリポツリと文句をこぼす。

「ったく、あのクソガキどもはよお、どこ行きやがったんだ。仕事
ほっぽってのうのと……」

第一由貴がやる仕事って危険すぎねえか？リンの野郎どんだけ由貴
をこき使ってたんだよ。

まあ、あのパワー馬鹿ならこんなことかるーくやつちまうんだろ
うけど……」

「だあーれがパワー馬鹿だあ？」

最高の笑顔と最高の殺気で登場した少女、由貴。

いつの間にいやがった。気配消すのあたしよりうまくねえか。

そんな感情がこの女性を支配していた。

コイツは天性の才能がある。そう思っではいるものの、如何しても
苛立ちを覚えてしまう。

「テメ 以外いるか、脳味噌まで筋肉でできてんじゃねえの？」

挑発するように指をくい、と曲げながら言う女性、こと姉さん。
基本怒りの感情は表に出さない由貴も頭に來たらしく、米神あたり
にうつすら青筋が浮かび、頬が引きつっていた。自分のことをけな
されるのを何よりも嫌う由貴は（ナルシだから）怒りのあまり、笑
顔になっていた。勿論目は笑ってないが。

「うるさい！……ってあれえ、頭の傷どうしたの、あ、もしかして
僕宛に來た依頼をやったらへましちゃって怪我しちゃったのか、そ
うかそうか、『あの程度』の仕事も姉さんはできないのかあ……へ
え、僕はあの程度のことなら毎日やってるのに……やっぱ僕だから
？僕って実は凄かったり？」

「いい度胸してんな、この傷はぐ・う・ぜ・ん！だ！いつもはこん
なへましねえだろうが。てめえの目は節穴ですか、てかあ？」

売り言葉に買い言葉。

このくらい、日常茶飯事である。

馬が合うのか合わないのか、この二人は気づけばいつもケンカして
いる。組織の中でも最悪の組み合わせと、結構有名だ。十二歳にし
ては口が達者な由貴が、大体勝つが。

由貴のナルシスト発言には突っ込む気が失せる。言い返す気もしな
いほど、自分が大好きなのだ。

二人がつばを飛ばさんばかりの勢いで、言い合いを始める。

ここだけ見れば、それは仲のいい姉妹のよう。とても微笑ましい光
景だ。二人の間を行き交っている言葉を聞かなければ、だが。刺々
しい言葉が彼方此方から飛んでいる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1030z/>

快晴時々雨

2011年12月5日20時46分発行